

「今、水道水を飲んでいる人はほとんどいない」との松岡利勝農水相の発言が波紋を広げている。

3月9日閣議後のこの発言は、その後のニュースやテレビで繰り返し放映されたため、気付いた人も多いはずだ。

議員会館事務所の光熱費問題にからみ、「水道には『なんとか還元水』をつけている」との衆院予算委員会での答弁に関連した発言だが、国民や水道関係者を愚弄する、あまりにも心ない発言と言わざるを得ない。案の定、農水省の報道室には「水道水を飲んでいる人もいるのに」「浄水器を買えということか」などの苦情が寄せられたというし、15日の参議院予算委員会でも民主党の蓮舫議員が取り上げ、柳沢伯夫・厚労相に見解を聞いた。

本紙はこれまで、「蛇口から水を飲む文化を守れ」をテーマに、水道

事業者が日夜奮闘する姿を伝えてきた。水源の監視、高度浄水施設の導入、多項マンシオン等の貯水槽水道の衛生管理等々、その努力を数え上げればきりが無い。

自己防衛のためとつきの発言に目くじらを立てるつもりはないが、水道人の懸命な努力を台無しにする

水道人の努力を台無しに

言葉には怒りを覚える。

国民の多くが水道水を飲んでい

るのは事実だし、蛇口から水を飲むことは世界に誇れる日本の文化だ。海外の事情に詳しい松岡氏は、諸外国と比べ、如何に日本の水道水が安全かを身にしみて理解しているはずなのに、残念だ。

松岡農相の発言

農水相の心ない発言が水

道関係者の間で話題にのぼる中、自民党の矢野隆司氏、伊藤忠彦氏、関芳弘氏の各衆院議員が12日午後、東京都の水道施設を視察した。首都東京水道の耐震・防災対策や治安対策の現状を知るのが目的だった。こちらの3人の感想は率直。東京

水道のレベルの高さに驚く一方、他の水道事業者が多くの課題に直面している現状に対し、予算確保の面でサポートしたいとの意欲を語り、新

人議員の真摯な爽やかさを印象づけた。ライフラインとしての上下水道に着目する国会議員の輪は確実に広がっているのだ。

話は変わるが、「健康のために水を飲む」と提唱している東京大学の武藤芳照教授は、「日本の水道はどこへ行っても安心して飲める」「健康のためには水道水のように、いつでも身近にある水をこまめに飲む習慣をつけることが大切」と呼び

かけている。年をとると喉の渇きを自覚するのが遅れる。健康のためには身近な水道水をこまめに飲むことが必要なのに、松岡農相には残念ながら武藤教授の呼びかけは届いていなかったようだ。

国政を担う方々には、未永く健康で活躍していただくためにも、科学的根拠のない還元水やどこかの銘水などではなく、是非とも水道水を飲む習慣をつけていただきたい。

特に松岡利勝議員には、一連の問題が終焉したあかつきに、東京都水道局の朝霧浄水場を見学することを奨めたい。国会議事堂や霞ヶ関の議員会館には、ここでオゾンや活性炭で高度浄水処理された水が送られているのだ。

安全でおいしい水を供給するために、いかに多くの人々がかかわり、努力を重ねているかを知ることが、今後の松岡議員の健康と政治活動にとつて、かつして無駄なことではあるまい。